

矢作川・東海(恵南)豪雨10年企画

東海豪雨を再現した洪水時の情報伝達訓練(国土交通省、愛知県、豊田市)を実施します。

1. 日 時 : 平成22年8月25日(水) 9:00~12:00
2. 参加主体 : 国土交通省(豊橋河川事務所、矢作ダム管理所)
愛知県(豊田加茂建設事務所)
豊田市
3. 訓練内容 : 10年前と現在とでは、ソフト面、ハード面で整備が進んできています。これらの整備の効果について、「もし、今東海豪雨が再来したとしたら?」を情報伝達を通して検証します。

4. 具体的な整備の例

堤防・護岸等の整備

- ・東海豪雨で漏水、越水被害のあった箇所について、堤防嵩上げ、築堤、堤防直下の浸透を防ぐための地盤改良等を実施してきた。

河川監視システムの整備

- ・矢作川沿川に37台の監視カメラを設置し、堤防の監視、支川合流点の状況把握、橋梁・樋門樋管等工作物の状況把握に役立てている。
- ・カメラ画像はインターネットで閲覧可能とし、河川の状況を自宅で把握可能とした。

洪水予測システムの充実

- ・レーダー雨量計の面的な雨量データ及び気象庁が行う予測雨量の結果を水位予測システムに自動取得できるようにした。

浸水想定区域図(ハザードマップ)の整備

- ・浸水想定区域図をもとにハザードマップを作成し、流域住民への避難情報等を提供した。